

考えてはいるが、港第二育成園に毎日通所し規則正しい生活と共に事業所内作業を中心に働く。②積極的に事業所外実習に出て将来は就職するための経験として働く。③一般就労は考えてはいるが、事業所内の作業では工賃が少ない。もっと工賃を稼ぐため半日、事業所外実習に出て働く。以上の3つの働き方に対応すべく、地域のボルトナット工場の皆様のお力を借りて日中活動である作業を用意しております。港第二育成園はバリバリと一日中作業に取り組んでいるイメージがありますが、上に挙げたように、『企業で』『実習場で』『事業所で』と働く場所に多様性があるように日課にも多様性があると思っており、例えば企業就労を一旦休憩し、在宅になられた方が毎日、活動することを目指す、リハビリ通所(短時間日課)をご希望の方、転職で次の職場を決めるまでの通過型利用(短期間契約)の方にも『働く』場の提供が出来ればと思っております。

2つ目の『礎』が“よく働きよく遊ぶ”です。港第二育成園の利用者平均年齢は約27歳です。まだまだ若く、アクティブに行事を楽しめることが出来ます。その反面、社会経験の浅さから上手く社会資源を利用し余暇を楽しむことが苦手な方もおられます。そんな方々が心から楽しみにでき、今後の充実した余暇活動のきっかけになるような行事をたくさん企画していきたいと思っております。

今年度も『バリバリ働いて、ガンガン遊ぶ!!』2つの『礎』(方針)を大切に明るく活気のある事業所運営を心掛け、職員一同努力してまいりますので、どうぞこれからもご指導・ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

ワークスいけじま 管理者 杉原 浩司



私の今年度のテーマの漢字は「繋(つなぐ)」です。

私は平成19年度～24年度までの5年間ワークスいけじまで勤務していました。その後グループホームや入所施設で5年勤務し、平成29年度から再びワークスいけじまで勤務しています。5年ぶりに戻って感じたのはご利用者の高齢化です。作業面や移動などでの衰えは勿論、健康面での課題も増え、生活習慣病などで通院する人も増えました。

繋

また、ご利用者が高齢化するという事は、支えるご家族も高齢化されたということで、生活面での課題も大きくなっていました。いけじまは基本的には日中活動の場ですが、生活面が安定しないと安定して通うこともできません。現在のいけじまの利用者18名のうち、単身生活者は9名で、グループホーム利用者は4名で、ご家族と暮らしておられる方は5名だけです。生活基盤の弱体化は喫緊の課題になっています。

しかし、変わっていないこともありました。利用者の「ワークスいけじまで働きたい」「地域で暮らしていきたい」という気持ちです。その気持ちにお応えするために私は「ワークスいけじまだけで完結しない支援」を目指すことにしました。

小さい事業所なのでスタッフの人数も少ないです。その少ないスタッフだけでご利用者の生活を支えることはできません。地域の相談支援事業所・就業生活支援センター・居宅介護事業所・医療機関・訪問看護事業所・行政などの関係機関と積極的にネットワークを作り、日常的に一緒に支援する仲間をこの2年作ってきました。その結果、利用者のQOL(生活の質)は向上し出席率もアップしました。何より笑顔が増えたと思います。

この先、高齢化は更に進んでいきます。「働く」ことを続けることが難しくなった方々も出てきました。今年度は慣れた地域に住みながら、いかに介護保険サービスとスムーズに連携していくかが課題だと思っています。人生の最後のステージまでプライドを持って過ごすため、育成会の理念を理念で終わらせないために、色々な社会資源と「繋」がりながら、利用者中心の支援を貫くことが大切だと思っています。

大阪市西部地域障がい者就業・生活支援センター 管理者 藤原 勇治



平成の最後から令和元年に係る本年につきましても、大阪市西部地域障がい者就業・生活支援センターの管理者の辞令を引き続き拝命いたしました藤原勇治です。与えられた役割を精一杯果たして参りますので、ご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

今回、各管理者が1年を通して、大切にしていこうと考えていることを漢字1字で表すとすると、という設定がありましたので、

啓